

## ニュージージーランド氷河の

### ウサギ

陶 易 王

ヘリのパイロット、トム・ガーランドは氷河の上に静かにランディングすると、シートベルトを外して、「あんまり遠くに行ってはいけない。崖の近くは駄目。2時間後に迎えに来る」と言って指を立てると、サングラスを掛けなおしてゆっくり離陸しました。

ヘリの影が山の向こうに消え、氷河は静かになりました。雪溪の外れに灌木の林があり、名前を知らない小さな小鳥が飛び交っていました。ザックを下ろして腰を掛け、妻が作ってくれたサンドウィッチを出して食べ始めました。

すると誰も居ないと思ったブッシュの間から一羽のウサギが顔を出しました。ウサギは首を傾げてこちらを眺めてから、その辺をピョン、ピョンと飛び回り、そこに置いたレタスの葉っぱを前足で掴むと、カリカリと食べ始め

した。氷河の雪の上は太陽がキラキラ輝いて眩しく、日光が暑く汗が出るくらいでした。雪の間からブッシュが顔を出しここにも植物が茂る事が判りました。

ウサギはその辺を飛び回って前に来ると二本足で立ち上がり、前歯を出してにやりと笑いました。不思議の国のアリスに出てくるようなウサギでした。その時、ウサギと眼が合っ

て、初めて気がついたのです。  
ウサギは私の息子でした。ウサギは少しくぐもった声で言いました。「あ、パパ。ボクだよ、僕たちずっと前に、富士山の見える海辺の町の図書館で会ったでしょう。あれからボクは一度死んでから、また生まれ変わったのさ。ウサギにね（注・医家芸術文芸特集号、平成14年11月号、富士山の見える海辺の町）。

輪廻の法則と言ってこの世で生きている者はすべて死ぬ。そしてまた動物に生まれ変わって来るんだ。ボクはウサギに生まれ変わってこのニュージージーランドに来た。最初は牧場で羊さんと仲良く暮らしていたのに、英国の入植者が大勢来て羊を増やし、ウサギは牧草を食べる、害獣だから追い払えと犬を沢山連れてきて、僕らは追われこの氷河に移ってきたのさ。

牧場にさえ行かなければウサギは何処でも可愛がられる。

此処には木の実や葉っぱや食べ物は何でもある。天敵の狐や  
鼬も来ない。雪氷の下にトンネルを掘って住んでいるけど、  
冬は暖かく夏は涼しい、安全で住み心地のいい天国さ。ボク  
は当分ここにいるつもり。たまには会いにきてね。じゃあ、  
さよなら。元気でね」

ウサギはピョンと跳ねて一度振り返り、ブッシュの陰に消  
えました。やがて、バタバタとヘリのローターの音が聞こえ、  
私はまたヘリに乗り込んで、遠ざかってゆく氷河を窓から眺  
めました。



### 春季号の発行予定日は4月1日付です

#### ◇原稿募集要項

日本医学会総会ソシアルイベントへ  
参加の準備に関するお知らせのほかは、特別な企画  
はありません。次のように原稿を募集します。

◎ 医家随想 従来同様です。テーマは自由。

◎ 医芸俳壇・歌壇・柳壇 それぞれ5句、5首。

◎ 評論、創作（コント・ろまん）、詩 その他。

新しい方の登場が待たれます。振るってご応募を。

◇締め切り 3月18日（金） 俳句等は22日（火）

（編集が終わり、印刷製本されて事務局に届くまで2週間  
ほどかかります。したがって締め切り後は次になります）

◇おわび 故半場久也先生の長期連載『新世界』から

発信されたドヴォルジャークの手紙と当時のアメリカ  
は休みます。なお、前回、文芸特集号の中で、  
あとしばらく連載予定とお知らせしましたが、編集  
担当の誤りで次の26回をもって終了です。数年前に  
最終回まで相当数を受け取り、紛失防止のためコピ  
ーした原稿を、まだ未掲載と錯覚しました。